

(様式3)

農業研究成果情報

No. 794 (平成29年5月) 分類コード02-10

熊本県農林水産部

摘蕾および早期摘果によるナシ「あきづき」果実のコルク状果肉障害発生軽減

摘蕾(一花叢一花に着花数を制限)または満開15日までの早期予備摘果により、コルク状果肉障害の発生が軽減し、大玉果を生産できる。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:平本 恵)

研究のねらい

「あきづき」は食味が良くみつ症の発生も少ない品種として本県では2005年から導入されてきたが、近年、果実に「コルク状果肉障害」が発生するようになり、商品化率が低下することが問題となっている。これまで同一条件において、収穫時の果実重が大きいほどコルク状果肉障害の発生割合が高くなることを明らかにしている(農業研究成果情報No.653平成26年5月)。そこで、果実重に影響を与える摘蕾や予備摘果の時期の違いが、コルク状果肉障害の発生に与える影響を明らかにした。

研究の成果

1. 摘蕾または予備摘果を早期(満開後15日以内)に行うと、予備摘果が満開30日以降の果実よりコルク状果肉障害の発生が少ない傾向にある(図1)。
2. 摘蕾または満開15日以内に予備摘果をすると、満開30日以降に予備摘果をするより果実が大きくなる。その他の果実品質については大きな差がない(表1)。

普及上の留意点

1. 仕上げ摘果はいずれの区も同日に行った。
2. 早期摘果は、満開10日後では果実が小さく摘果しにくいため、満開15日をめどに行う。

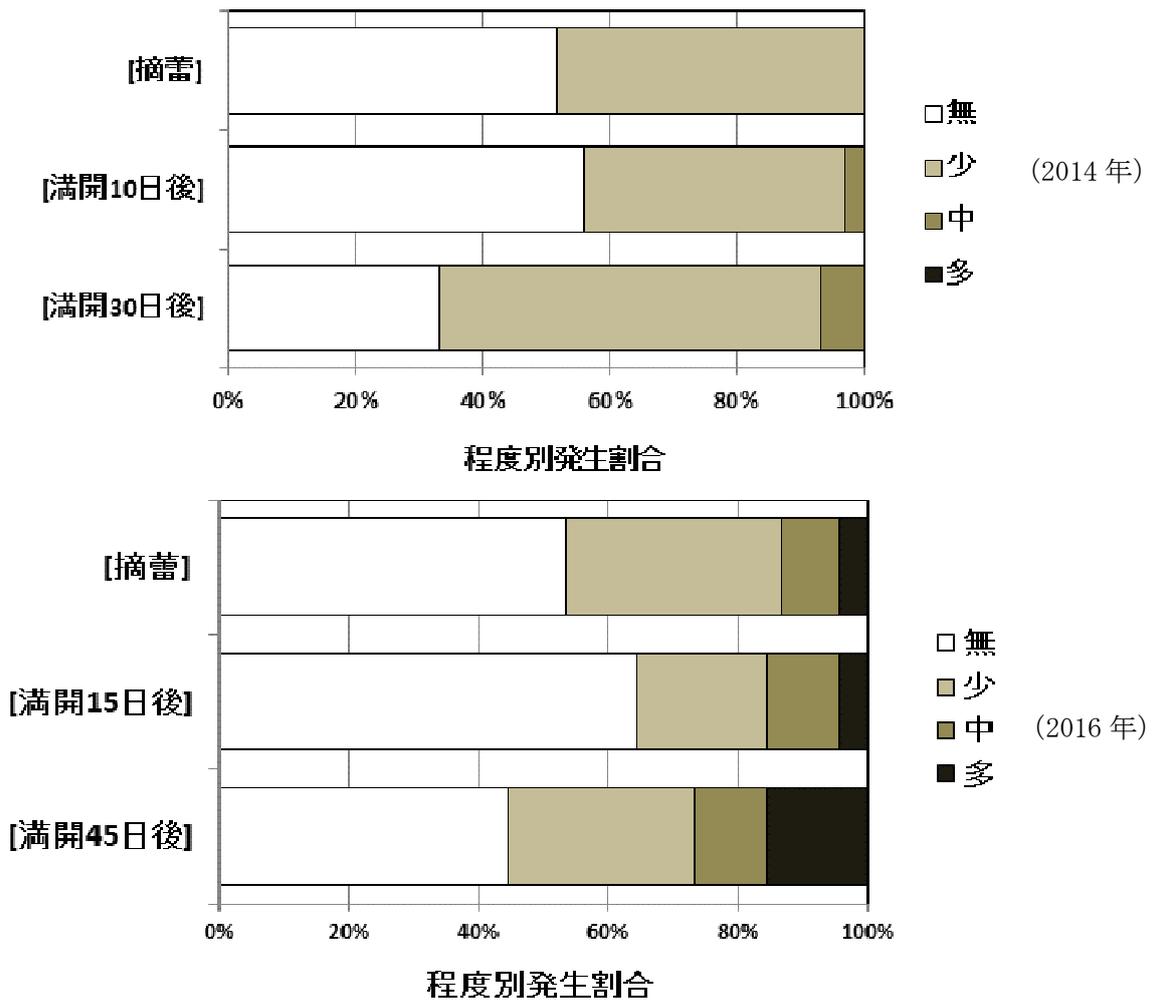


図1 「あきづき」 の摘蕾および予備摘果時期の違いによるコルク状果肉障害発生への影響

表1 「あきづき」 の摘蕾および予備摘果時期の違いによる果実品質への影響

調査年	試験区	1果重 (g)	果皮色	硬度 (lbs)	糖度 (Brix)
2014年	摘蕾	636a	3.8a	4.7a	11.9a
	満開10日後	578a	3.7a	4.4ab	12.1a
	満開30日後	501b	3.7a	4.3b	11.8a
2016年	摘蕾	566a	3.6a	5.4a	13.0a
	満開15日後	507b	3.8a	5.5a	12.9a
	満開45日後	385c	3.6a	5.2a	13.2a

注1) 果皮色はニホンナシ地色カラーチャート値

注2) 調査年毎の同列異符号間には Tukey の多重検定により 5%水準で有意差あり